

シグマ研究委員会  
61年度第2回運営委員会議事録

日 時 昭和61年6月3日（金）13:30~17:30  
場 所 原研本部 第5会議室  
出席者 麻園（委員長、原研）  
　　堀山（東北大）、中沢（東大原施）、中嶋（法大）、  
　　村田（N A I G）、五十嵐、河原崎、長谷川、松浦（原研）  
　　オブザーバー：浅見、中川（原研）

配布資料

- (1) 前回議事録（案）
- (2) 61年度シグマ研究委員会（シグマ特別専門委員会）委員（案）
- (3) NEA DATA BANK COMMITTEE Tenth Meeting
- (4) N. Tubbs氏からの手紙
- (5) Technical Meeting og the JEF Group and Meeting of the JEF Scientific Co-ordination Group
- (6) J E Fについての資料
- (7) 核データ国際委員会名簿
- (8) Contributions for Neutron Capture Gamma Ray Newsletter
- (9) 1986核データ研究会プログラム案
- (10) シグマ特別専門委員会内規（案）
- (11) 諮問・調整委員会資料
- (12) シグマ特別専門／研究委員会議題（案）
- (13) JENDL-3以降の計画検討小委報告案

議事

1. 前回(61.4.25) 議事録確認

資料1により確認を行い、一部訂正の上了承された。 なお、議事録にある本委員会の期日6月24日（火）は6月26日（木）に変更になった

との報告があった。

## 2. 事務局報告

### (1) 人事関係

浅見氏から、資料2の名簿の説明とともに崩壊熱評価WGのリーダーが秋山氏から吉田氏(NAIG)に変ったことの報告があった。資料2の名簿については本委員会で了承をとることにした。

### (2) 会合予定

五十嵐氏から、WG会合の調整を行いたいので、各専門部会から各WGに、WG会合の計画を事務局に出すように連絡して欲しいとの要請があった。

## 3. NEAデータバンク委員会報告

五十嵐氏から5月15~16日に行われたNEAデータバンク委員会について資料3により報告があった。また、資料4によりNEAデータバンクのEXFORに格納されたデータの状況について説明があった。

## 4. JEF科学調整会合報告

五十嵐氏から5月5~7日のTechnical Meeting of the JEF GroupとMeeting of the JEF Scientific Co-ordination Groupについて資料5のAgendaを用いて報告があった。

## 5. IND C会合について

鹿園氏から第15回IND C会合に出席するに当っての説明があった。

## 6. 核データ国際会議の準備状況

五十嵐氏から、資料7の核データ国際会議の国内組織委員会、プログラム調整部会、企画運営部会のメンバーが6月1日付けで発令になること、6月6日にプログラム調整部会と企画運営部会との合同会合を開く予定である等の説明が行われた。これに関連して物理学会や原子力学会への連絡について議論が行われた。

## 7. Neutron Capture Gamma Ray Newsletterについてのアナウンス

五十嵐氏から資料8のアナウンスがあった。

## 8. 学会特別会合のプログラム

村田氏から特別会合のプログラムの検討中の案について説明があった。

また、梶山氏から学会での計画等についても説明が行われた。これに対

して次のような意見が出た。

- ・国際会議関係の話はないか。
- ・高燃焼化の問題はどうか——Advanced HCLWR のこともあるがむずかしい。核データのことだけでなく geometry の影響も大きい。
- ・JENDL-3 の話は? ——研究会の方は評価を重点にするので利用に重点を置く方が良い。
- ・炉物理の方で何かないか 等々。

その結果、特別会合のテーマには (1) 国際会議、(2) 炉物理を取り上げることにした。

#### 9. 学会企画委員の次期候補

五十嵐氏から中川氏の推薦があり了承された。

#### 10. JENDL-3 以降の計画検討小委員会報告

中沢氏から、資料 13 により検討小委員会の報告案について詳細な説明があった。検討小委員会での検討の経緯とともに具体的な活動計画案として

- ・JENDL-3 汎用ファイルの国内標準利用システムの整備
- ・原子力の先端技術化に対応した核データ活動の推進
- ・核データ活動の基盤的体制の整備

が挙げられ、討論が行われた。主な意見・議論は次の通り。

- ・この小委外のことかも知れないが、核データ分野の老齢化のことも含めた方がよい。
- ・今まで voluntary 活動で支えられてきたが、今後も続くか?
- ・精度を上げる方向の測定では魅力がなくなるのではないか?
- ・原子炉設計からの要請がどんどん出てこないとゆきずまる。
- ・核データについての要請が公式に出てくると良い。
- ・データの利用が進むと要求も出てくる。
- ・測定は、設備があっても voluntary の力が結集しないとやれない。
- ・計画をどう実施するかが問題である。
- ・データを作るのと使うのが別れるので今までのやり方ではだめなのではないか。データは使われないとだめである。JENDL-2 は FBR の実証炉に使われた。

- ・ JENDL - 2 は熱中性子データが欠けていたために熱中性子炉に使われない事実があった。
- ・ 今後は special purpose のデータをやり、それをまとめて JENDL - 4 になるのか？
- ・ 原研でデータを使ってもらう仕組を考える必要がある。
- ・ 国産のデータを使う方針が大事である。
- ・ 医学利用、ウラン濃縮等の分野からの支持をうるためにには、それらも含める必要がある。
- ・ 「長期計画」の書き直しの時期なので、この報告書からとてうまく盛込めたらよい。
- ・ 使ってもらうためにはデータを通信で利用できることを考える必要がある。
- ・ 吉原氏のデータブックの改訂の話がある。崩壊データを提供することも考えられる。
- ・ 出版のための検討グループをつくることが考えられるが、シグマ委が何処までやるか、深入りは問題である。
- ・ 原研の中で集団を作ってやったらと言う話はあるが実現は大変である。
- ・ 中性子データはもういいと言う認識がある。
- ・ 米国で B - I I I でよいとする処もある。新しくすれば使われるとは限らない。
- ・ ガンマ線のデータを早く出して欲しいとの要請がある。
- ・ JENDL - 1, - 2, - 3, . . . と行く形を考え直す turning point に来ている。
- ・ レーザー濃縮のデータがない。早目にやった方が宣伝効果がある。
- ・ すぐにデータが出せないので、装置から整備が必要である。
- ・ やることが多くてなかなか絞り切れない。等々

#### 11. 諮問・調整委員会報告

福山氏から 5月 23日の諮問・調整委員会会合で行った内規の見直しについて報告が行われた。内規は委員の選出をはじめ、全面的に見直しが必要であって、内規は基本のみにして細かいことは要綱にすることで資料 10 の改訂案を作った。特別専門委と研究委とを分離する案もあったが

大部分の人は反対であったので専門委と研究委とを裏腹で運営することで案をまとめたとの説明があった。さらに、後で考え直すとまだおかしな点もあるので再検討したいとのことで、個人的見解であるとして、主査=シグマ研究委員会委員長とする資料11が説明された。これらに対して次のような意見が出た。

- ・委員の停年制はないのか？
- ・主査の選挙がなくなって、すっきりするのはよいが反対もあるかも知れない。それなら専門委と研究委とを分離するより仕方がない。
- ・炉物理のように炉物理委員会と連絡会とに分けるやり方もある。

なお、相山氏から諮問・調整委員会の委員の意見をさらに聞いて本委員会に案を出したいとの発言があった。また、核データの連絡会については、大学関係者で検討してもらうことにした。

### 12. 本委員会議題の調整

五十嵐氏から、資料12の本委員会（6月26日）の議題案について説明があり、議題の検討を行った。

### 13. 核データ研究会

五十嵐氏から、資料9により5月30日の核データ研究会準備委員会で作成したプログラム案の説明が行われた。また、中国の蔡氏およびマレーシアからの手紙の紹介とともに中国からは交流制度でLiu氏がくるとの報告があった。

なお、核データ研究会の日程としては11月11日～13日を予定していたが、IAEA主催の核融合国際会議が11月12日より京都で開催されることが分ったので11月26日（水）、27日（木）に変更することにし、至急、検討小委員および座長・講演予定者に連絡することにした。

次回は7月22日（火）原研本部で行う予定。